

平成 31 年お茶づくり技術情報 (No.4)

2019 年 (平成 31 年) 4 月 5 日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. 生育状況 (試験場内作況調査ほ場)

表 1 作況調査園の芽長と開葉数

調査日		4 月 5 日		
芽長 (cm)	本年	1.28	±	0.34
	前年	2.25	±	0.57
開葉数 (枚)	本年	0.45	±	0.32
	前年	1.04	±	0.38

注) 品種 : やぶきた (18 年生)

- 1) 2019 年 3 月 28 日に茶業試験場内の作況調査園 (定点調査園) において一番茶の萌芽を確認した (前年 (3 月 30 日) よりも 2 日早い萌芽)。
- 2) 萌芽後の生育状況は、芽長が前年より短く、開葉数は前年より少なく、生育は前年よりも遅れている (表 1、写真 1・2)。
- 3) 生育が遅れた要因として、萌芽後の低温および降雨がなかったことが考えられる (図 1・2)。



写真 1 作況調査園の生育状況
(4/5 撮影)



写真 2 作況調査園の新芽の生育状況
(4/5 撮影)

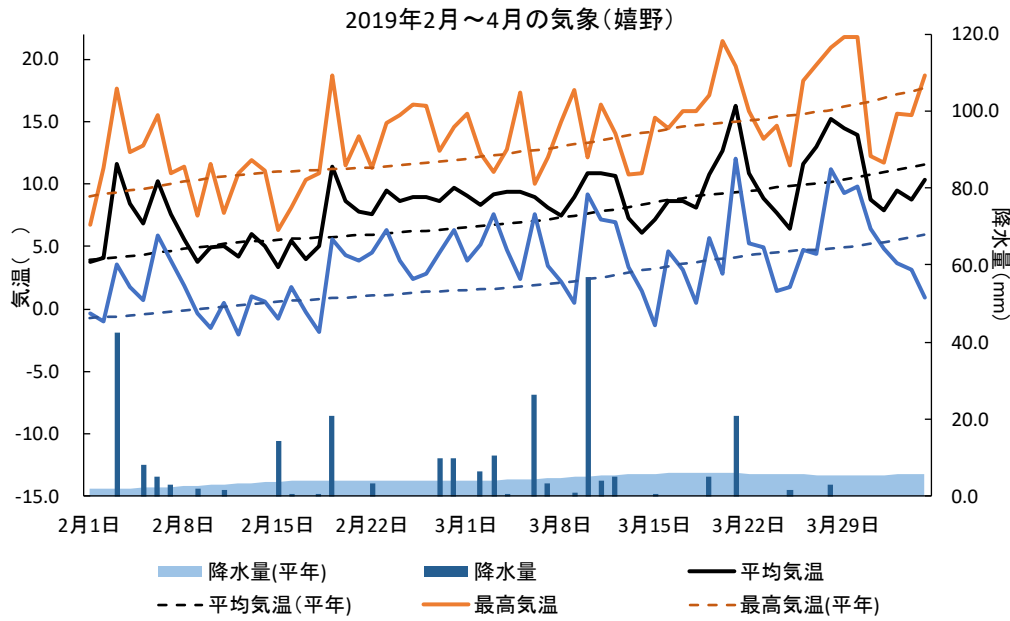


図1 これまでの気象(2019年2月～4月)

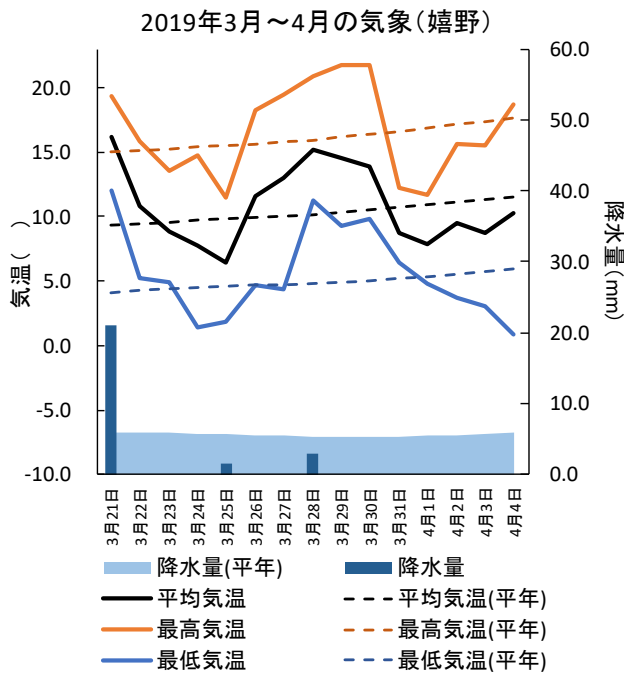


図2 萌芽期前後の気象状況

2. 今後の栽培管理

- 1) 芽出し肥の施用等、まだ終わっていない場合は早めの施用・管理を心掛け、管理が遅れないように注意する。
- 2) 被覆資材は、遮光率 70%程度で、穴・汚れ・異臭のないものを使用し、開始時期は 2.5~3.0 葉期を目安にし、期間は 10 日間程度とする。
- 3) 被覆前には、カンザワハダニ・コミカンアブラムシ等、病害虫防除を徹底する。
薬剤の使用にあたっては、摘採前日数を遵守する。